

〈2018 ‘わんりい’ 新年会・シュワンヤンローで新年を祝おう〉

2018年2月4日(日) 場所：麻生市民館・料理室

2018年の‘わんりい’の新年会は、立春の2月4日に行われました。春節は16日からなので12日早い開催です。参加者はちょうど50名で、中国の皆さんが16名、マレーシアが1名と国際色豊かな(?)新年会となりました。

例年通り有為楠さんの司会で幕が開き、新代表の寺西さんから開会宣言があり川崎支部長の山田賀世さんの音頭で乾杯となりました。早速、この新年会の定番である「シュワンヤンロー」鍋を囲みながら、そこそこに話の花が咲き始めました。

体が温まりお腹も落ち着いてきたころいよいよ余興タイムです。今回は、高鳥さんの漢詩朗読と歌、佐藤紀子さんと菅野良子さんの二胡演奏、花岡風子さんの漢詩朗読の順で進行しました。花岡さんは、お願いしていた漢詩2編のあと、追加で宋の女流詩人、李清照(1084～1155年)の宋詞・「如夢令」を朗読してくださいました。

そしてここで思いがけず、今年初めてご参加くださった桜美林大学・名誉教授の植田渥雄先生(‘わんりい’「中国語で読む漢詩の会」講師)が思いがけずご登場下さり、李清照と宋詞の簡単な説明を頂きました。宋詞はメロディーが先にあって、それに合わせて作詞されるものだそうで、楽譜は今でも残っているものが少しありますが、調子、歌い方などは分からなくなってし

まっています。それを植田先生が編曲して生き返らせ、朗々と歌ってくださいました。現代に生きる我々が当時の庶民の生活の一部を垣間見た気がします。新年会



「如夢令」を朗読する植田先生

に初めてご参加いただいた植田先生に、素晴らしいプレゼントを頂きました。最後に、小学校唱歌の春の歌2曲と「ふるさと」を皆で歌い余興の部は終わりました。今年の冬は例年になく寒さが厳しいですが、それだけに春の到来が待ち遠しいですね。

今年の新年会でもう一つ報告をすることがあります。それは秩父にある「神怡館」の館長である

神林直樹さんのお話です。1982年に、埼玉県は中国・山西省と姉妹友好州省となりました。その記念に秩父の小鹿野町に「神怡館」という名の豪壮な建物を建て、そこで山西省をはじめ中国の各地の文化や歴史を紹介する品々を展示し、多くのイベントが開催されてきました。しかし近年入場者が減少し、また建物の維持費も負担になってきたことなどから今年の3月末で閉館との結論が出たそうです。神林さんからパンフレットが配られ、そうした身につまされる状況の話がありました。これまで‘わんりい’は神怡館と親しく交流を続けてきただけに残念でなりません。

新年会はこのあと恒例のビンゴで大いに皆さん楽しまれ、最後に会員の河本義宣さんの手締めで無事終わりました。



羊肉のしゃぶしゃぶに舌鼓を打ちながら、会場のあちこちに交流の輪が広がる